



奄美市立奄美博物館 × 沖縄こどもの国

令和4年10月～令和5年9月

世界自然遺産

奄美とやんばる

の自然を学ぶ

企画展・ワークショップレポート

【発行日】2023年11月

【発行】公益財団法人沖縄こどもの国（沖縄県沖縄市胡屋5-7-1）

【編集・執筆】金尾 由恵（沖縄こどもの国）・平城 達哉（奄美市立奄美博物館）

【デザイン】陳 佑而



本活動は、公益財団法人自然保護助成基金第33期（2022年度）プロ・ナトゥーラ・ファンド助成を受けたものです。

はじめに

奄美と沖縄を含む琉球列島は、固有の自然環境を有し、生物多様性に富んだ地域です。2021 年には、奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島が、国内で 5 番目世界自然遺産に登録されました。

その琉球列島に所在する沖縄こどもの国と奄美市立奄美博物館は、ともにそこに暮らす生物や自然環境について、地元の方々に発信したいという考えをもっていたため、公益財団法人自然保護助成基金第 33 期（2022 年度）プロ・ナトゥーラ・ファンド助成に申請させていただきました。無事に採択を受け、プロジェクト「世界自然遺産「奄美とやんばる」の自然を学ぶ」において、いくつかのプログラムを実施しましたので、その成果をレポートにまとめました。

このレポートを手にとってくださった皆様が、琉球列島の自然に興味を持ち、ともに魅力を発信する仲間となることを願っています。

世界自然遺産に登録された地域にある動物園と博物館

沖縄こどもの国

楽しみながら学べる！体験できる！沖縄こどもの国 Okinawa Zoo & Museum は、沖縄島中部にある動物園とワンダーミュージアムの複合体験施設です。

沖縄県を含む琉球列島は世界中でここにしかない自然環境を有し、その自然環境のもと独自の文化が育まれてきました。沖縄こどもの国では身近な琉球列島の自然や文化を伝える様々な取り組みを行っています。

動物園では、約 150 種の動物を展示しており、琉球列島の野生動物や在来家畜をはじめとして、日本や世界の野生動物に出会うことができます。またチルドレンズミュージアムであるワンダーミュージアムでは、さわって体験できる様々な常設展示にくわえて、各種ワークショップの実施、オリジナル工作キットの販売も行っています。園内では動物エサあげ体験などの体験プログラムや動物のことを楽しく学べるイベント、また多種多様なワークショップを開催しています。



奄美市立奄美博物館

奄美市立奄美博物館は、1987 年に開館した鹿児島県奄美市名瀬に所在する市立の総合博物館です。開館から 30 年以上の時を経て、2019 年には奄美群島国立公園で提唱された「環境文化型」という概念を根幹に据えた展示へと大幅に更新しました。

1 階展示室は奄美の海をイメージした博物館の、そして奄美旅の導入展示フロア、2 階展示室は里をイメージした奄美の歴史と民俗のフロア、3 階展示室は山をイメージした奄美の自然と暮らしのフロアとなっています。各階には、大人だけでなく親子連れで楽しめるハンズオン装置を設置しています。その例として、奄美の伝統工芸である大島紬の織り機の仕組みやサトウキビ搾りの体験、奄美大島デジタルいきもの図鑑などが挙げられます。

また、博物館 4 大機能の 1 つとされる「教育普及」にも力を入れています。特に、2021 年に「奄美大島、徳之島、沖縄島北部および西表島」が世界自然遺産に登録されたことをきっかけに、自然分野の活動を幅広く展開しています。

琉球列島の自然

琉球列島は、九州の南端から台湾に至るまでの約 1200km の距離を連なる 100 以上の弧状列島のことであり、亜熱帯海洋性気候に属し、一年を通して温暖で湿潤な気候です。長い歴史の中で琉球列島の陸地は大陸とつながったり、海に沈んで島になったりをくりかえし、現在の島々にわかれてきました。琉球列島の島々に取り残された生き物たちは、それぞれの島の自然環境に合わせて独自の進化をとげてきました。古い時代に海峡になったトカラ海峡とケラマ海裂で生物相が大きく異なり、北琉球・中琉球・南琉球と分けられ、それぞれ独自の生態系を築いています。

今回のプロジェクトでは、中琉球（トカラ列島の一部・奄美群島と沖縄諸島）にスポットをあてて、プログラムを実施しました。



中琉球の島々「奄美とやんばる」



奄美とやんばるには、多くの動植物が生息・生育しており、希少な固有種も数多く生き残っていることから、生物多様性の島として注目されています。両島にはケナガネズミのような同種の動物もいれば、アマミイシカワガエルとオキナワイシカワガエルのような近縁種も暮らしています。また、奄美群島にはアマミノクロウサギ、やんばるにはヤンバルクイナのように、それぞれの島で固有の生きものも暮らしています。

奄美群島の自然

鹿児島県の南に位置する奄美群島は、トカラ列島と沖縄諸島の間に点在する喜界島・奄美大島・加計呂麻島・請島・与路島・徳之島・沖永良部島・与論島の有人 8 島からなります。

奄美群島の西側を流れる黒潮とモンスーンの影響を受け、年間降水量は 2,200 ～ 3,300mm にも及ぶ「亜熱帯海洋性気候」に属します。年間平均気温は 21℃前後で、最も冷え込みが厳しい 1 ～ 2 月においても、10℃を下回る日はほとんどありません。そのため冬眠する動物はおらず、ハブなどの変温動物も気温の低下により活動が鈍くなる程度です。

また、国内最大級の常緑広葉樹林、琉球石灰岩の急峻な断崖や熱帯的なカルスト地形、日本で 2 番目の面積を誇るマングローブ群落、広大なサンゴ礁など、島によって自然環境は大きく異なり、今もなお陸域から海域まで多様な生態系が残されています。

やんばるの自然

やんばるは、漢字では「山原」と書き、森が広がっている沖縄島北部の森林地帯のことを指します。「どこからどこまでがやんばる？」と質問されると実は、明確な定義がありません。今回は、世界自然遺産の登録エリアでもある国頭村・大宜味村・東村の北部 3 村をやんばるとしました。意外に狭く、南北約 32 km、東西約 12 km の範囲の中に、多くの固有種を含むたくさんの生きものがくらしています。やんばるは、奄美と同じく亜熱帯海洋性気候となり、似た自然環境となります。まるでブロッコリーが並んだようなもこもことした森になっており、それらの森を形作る木はイタジイといひます。古生代に堆積した古い石灰岩の地層がほとんどで、地形的には山地が多く、海岸平野はとても狭くなっています。また、山地といっても、それほど高い山はなく、一番高い与那覇岳でも 503m となっています。



動物園のお仕事ー沖縄こどもの国の取り組みー

実施日：2022 年 10 月 18 日

開催場所：奄美市立奄美博物館

講話：金尾由恵（沖縄こどもの国）

参加者数：27 名

大きな動物園が存在しない島のこどもたちに、日頃から展示されている世界中の動物のことだけではなく、裏方としての業務を知ってもらう機会として、「動物園のおしごと」と題した講話を行っていただきました。この講座は、親子を対象として応募し、当日は9家族27名が参加しました。



動物園の職員でなければ見ることのできないゾウの出産シーンの映像を公開したときの盛り

り上がった様子や、クイズ時間の動物園職員と参加者との活発な議論を見て、こどもた

ちにとってはあっという間の 40 分だったことと確信しました。また、動物園として

の教育普及活動や、生息域外保全等の調査研究に関する内容を聞いて、子どもた

ちが知らない動物園の側面を垣間見ることができたという感想もありました。

離島に所在する博物館として、今後も奄美大島では知る機会の少ない内容

に関するイベント等を実施していく必要性を、改めて実感する機会と

なりました。（平城）

奄美とやんばるのいきものつくろう連続ワークショップ

実施日：2022 年 11 月 5・20・26 日、12 月 17 日

実施場所：沖縄こどもの国と奄美市立奄美博物館（オンライン併用）

講話とワークショップ：平城達哉（奄美博物館）

金尾由恵・陳佑而（沖縄こどもの国）

参加者数：奄美 10 名・沖縄 6 名

（合計 16 名）

世界自然遺産に登録された奄美大島と沖縄島北部に暮らす子どもたちをオンラインで繋ぎ、両島の自然について学びながら、それぞれの地域のいきものの箱型ペーパーミニシアターを製作するワークショップを行いました。このワークショップは、1人1作品を完成させることが目的であったため、基本的に全5回に参加できる小学生以上の親子を対象としました。それぞれの島に生息する動物や自然環境をテーマにして、子どもたちが思い思いにイラストを描き、最終的には全員が世界に一つだけのペーパーミニシアターを完成させました。

奄美の子どもたちは、自分たちの暮らす島の動物についてはある程度の知識があるようでしたが、やんばるにリュウキュウヤマガメやクロイワトカゲモドキのような、そもそも島には生息していない分類の動物に関心が強かったように感じました。沖縄の子どもたちも、生き物に関心が高く、講師が提案した生き物ではなく、自分が好きだと思ふ生き物についての作品を作成していました。

最後の5回目のワークショップでは、完成した作品の発表会も実施し、子どもたちの思いや生き物に対する愛情を、全員で共有することができました。完成した作品は、沖縄こどもの国では干支展で公開し、奄美博物館では期間限定的展示ブースを設けたことで、多くの来場者に対して、この取組を発信することができました。（平城&金尾）



参加者の声

- ・絵を描く過程で動物の習性や特ちょうなどいろんなことを知ることができた。
- ・動物がどんな所に住んでいるのかももう少し知りたい
- ・自分の知識がなさすぎるので今回のようなこういう機会が増えていくと嬉しいです。
- ・ヒャンとハブのことをもっと知りたい



干支のいきもの展「卯」

展示期間：2023 年 1 月 2 日～2 月 12 日

展示場所：沖縄こどもの国

2023 年は卯年のため、アマミノクロウサギをメインテーマとした干支の企画展を開催しました。

企画展では、奄美とやんばるのいきものつくろう連続ワークショップで製作されたペーパーミニシアターをはじめ、平城達哉氏が撮影したアマミノクロウサギを含む奄美大島の風景や野生動植物に関する写真などを一堂に展示しました。奄美とやんばるは琉球列島に位置しており、同じく中琉球に属する地域でありながら、行政区分が異なるためか、お互いの自然環境について知らない方も多いと感じられます。この企画展を通じて、奄美とやんばるの自然に触れ、その魅力を発見する機会となりました。特に、展示の中で最も注目を浴びたのは、ワークショップで製作されたペーパーミニシアターでした。参加者が感じた生き物の魅力が、細部にわたる手作りの工夫によって表現され、来園者の心を引き寄せたと考えられます。(金尾)



琉球のウサギの箱庭つくろう

実施日：2023 年 1 月 15 日

開催場所：沖縄こどもの国

講話とワークショップ：平城達哉（奄美博物館）

金尾由恵・陳佑而（沖縄こどもの国）

参加者数：21 名

2023 年の干支である「ウサギ」にちなんで、琉球列島に生息する唯一のウサギの仲間であるアマミノクロウサギについて学ぶワークショップを開催しました。当日は、オンラインで奄美大島と沖縄島を繋ぎ、日本全体のウサギ、アマミノクロウサギが古文書に登場したこと、新種記載された当時のこと、特殊な子育て方法や生態、観察方法、現在直面しているロードキルや外来種等を中心に、奄美大島全体の生き物の講話をしました。

その後、アマミノクロウサギの生息地を再現する箱庭作りを行い、事前に準備された張り子、生息地をイメージした背景紙、アクリル絵の具や折り紙などを活用しながら、参加者全員が唯一無二の作品を完成させていました。準備されていたものを切り貼りしながら製作されたものもあれば、全て自作の、オリジナル性豊かな作品もありました。(平城)

参加者の声

- ・アマミノクロウサギの鳴き声に驚いた
- ・沖縄に住んでいながらも知らないことだらけで
どんな動物でも勉強になりそうです
- ・イシカワガエルやハナサキガエルを見たい、知りたい
- ・お兄さんのお話が楽しかった。他の絶滅危惧動物についての講座を受けたい
- ・アマミノクロウサギの知識が深まりました。

ワークショップをしながら楽しく学べて幸せでした！



ヤンバルクイナと沖縄の動物園

実施日：2023 年 5 月 28 日

開催場所：奄美市立奄美博物館

講話：中村智映（沖縄こどもの国）

ワークショップ：
中村智映・友利和也（沖縄こどもの国）

参加者数：17 名

沖縄島北部固有のヤンバルクイナについて、奄美大島の人々にも知ってもらうことを目的とした講座とワークショップを開催しました。沖縄こどもの国飼育員の中村智映氏による講座では、ヤンバルクイナの基本的な生態とともに、飼育員として担当しているからこそわかる、知られざる素顔に迫る場面もあり、子どもたちからは驚きの声があがっていました。

ワークショップでは、事前に準備されたヤンバルクイナのスタンプ、奄美大島と沖縄島に生育する植物の葉を利用して、ヤンバルクイナのオリジナルトートバッグを製作しました。いざ、葉っぱをスタンプのように押してみると、思っていたよりも色が出なかったり、細部まで模様が現れなかったり、苦戦している参加者もいたようです。「これなら自宅でもできそう」と嬉しそうに、帰宅する少年の姿が印象的でした。奄美大島でヤンバルクイナを題材にした初めてのイベントは、大盛況で終了しました。(平城)

参加者の声

- ・奄美の森と、とても良く似ていると思ったので、
似ている所、ちがう所を知りたいと思いました。
- ・ヤンバルクイナは好きでしたが、もっともっと好きになりました。



とびだせ！奄美の自然

実施日：2023 年 6 月 18 日

開催場所：沖縄こどもの国

講話：平城達哉（奄美博物館）

ワークショップ：金尾由恵（沖縄こどもの国）

参加者数：23 名

奄美群島に生息する 3 種の固有鳥類「ルリカケス」「オーストンオオアカゲラ」「オオトラツグミ」を題材とし、これらとやんばるの鳥類とを比較することで、それぞれの島の自然の違いを学び、琉球列島の自然に対する興味を引き出すことを目的としたワークショップを開催しました。ワークショップでは、様々な鳥類の写真を用いたクイズ形式の講話で始まり、未就学の子どもから大人まで楽しめる内容でした。休憩時間には、子どもたちが講師に向けて矢継ぎ早に質問をする様子が印象的でした。その後、奄美固有の鳥類 3 種の生態や特徴について講話で聞いた内容を復習しながら、剥製や写真をじっくり観察し、それぞれの鳥の色を塗り、背景となる自然環境の写真と組み合わせたものづくりを行いました。(金尾)

参加者の声

- ・久々に奄美を感じて楽しかったです
- ・知らないことばかりで勉強になりました！
- ・講師の方が大変、たのしそうにお話してくださり、
聞いている側も素直にかんどうできました。



琉球のいきもの

今回のワークショップや企画展で取り扱ったいきものたちを紹介します。

ヤンバルクイナ

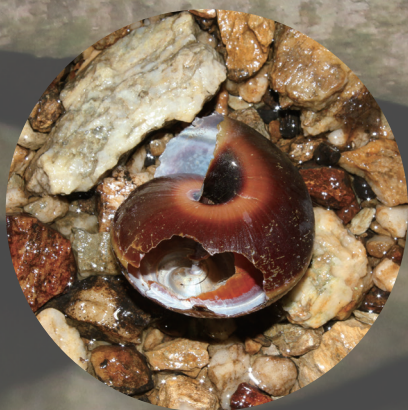
世界中で沖縄北部の森林地帯（やんばる）のみに生息するクイナ科の鳥類で、国の特別天然記念物および国内希少野生動植物種に指定されています。1981年に新種記載されましたが、発見以前より、地元では「アガチャー（慌て者）」「ヤマドウイ（山の鳥）」と呼んでいました。

ヤンバルクイナはいろいろな種類の鳴き声で鳴き、鳴き声で他個体とコミュニケーションをとります。1羽が鳴くと、次々に他の個体も鳴きだす時があり、その時は遠く 500m 離れた相手にも聞こえるような大きな声が、やんばるの森にひびきます。

日本で唯一の飛べない鳥であるヤンバルクイナ。体のわりに翼が小さく、翼の構造や筋肉を観察すると、ほぼ飛ぶことができないであろうと考えられています。食性は雑食性で、いろいろなものを食べます。落ち葉の下にいるミミズや昆虫やカタツムリ、そしてどんぐりのような木の实などいろいろなものをエサとしています。そして、大きなカタツムリを食べる時は、何と道具を使います。石を台にして、その石にカタツムリを打ち付けて、殻を割ってから中身を食べます。

繁殖期は4月～7月ごろです。つがい（ペア）となる相手を探し、つがいとなったヤンバルクイナは地上に巣を作り、産卵します。オスとメスで交代しながら、卵をあたため、孵ったヒナも2羽で子育てをします。産まれたばかりのヒナは真っ黒でほわほわした羽根でおおわれており、太くてたくましい足をしています。孵化したその日から歩き始め、親について歩き、エサ探しを教わり、生後2か月ほどで親とかわらない姿になり、夏の終わりごろ親離れをします。

近年、フィリマンゲースなどの外来生物駆除の成果もあり、ヤンバルクイナの生息域が名護市源河川付近まで拡大していること、また生息数が回復していることが、環境省の調査で報告されています。（金尾）



アマミノクロウサギ

奄美大島と徳之島だけに分布し、国の特別天然記念物および国内希少野生動植物種に指定されている固有種です。環境省は、保護増殖事業の一環で行われた各種調査や、マンゲース防除事業等で得られた自動撮影カメラのデータ解析の結果から、2021年の推定個体数は19,558（95%信頼区間：10,024－34,427）頭と発表しており、長期的な増加傾向が推定されています。

全長36～58cm、体重2kgほどで、日本本土に分布するノウサギよりも耳と肢が半分程度に短いです。また、ウサギの仲間としては珍しく、金属音のような甲高い鳴き声を発することも特徴です。

おもに森林地帯に生息しますが、海岸周辺や集落内での観察例も増えています。昼間は岩のすき間や自らが掘った巣穴で休息します。夜になると、森林内、沢沿いや林道沿いなどで活動し、さまざまな植物の葉・茎・実・樹皮を食べます。



秋頃から始まる繁殖期には、子育て用の巣穴が別に作られ、2日に1回程度、親ウサギが授乳に訪れます。

授乳が終わった後、巣穴の入口は塞がれます。仔ウサギが成長してくると、巣穴を開けたままその場を離れるようになり、やがて巣立ちを迎えます。

直径5～10mmほどの球形のフンをします。数にばらつきがあるものの、一度で10～40個ほどのフンをすることが多いです。同じ場所に溜めフンする習性があるため、しばしば古いものと新しいものが混在しています。奄美大島には、そのフンをエサとする糞虫が数種生息しています。アマミノクロウサギを保護することは、これら糞虫を守ることにもつながります。

近年、奄美大島と徳之島では、肢先の一部が白くなる個体が確認されるようになってきています。原因は不明ですが、徳之島では特に多く確認されています。（平城）



オーストンオオアカゲラ

奄美大島だけに分布するキツツキの仲間で、国の天然記念物および国内希少野生動植物種に指定されている固有種です。年間を通して観察することのできる留鳥です。頭頂部が赤いのはオス、頭頂部が黒いのはメスです。全長は 28cm ほどで、山地から平地に生息します。古い木や枯れた木の中にいるカミキリムシの幼虫などを食べます。

繁殖期前の冬頃には、縄張りの主張や繁殖相手へアピールするため、高速で木をつつくドラミングをします。鉄塔や電柱にドラミングすることもあり、その音は周囲に響き渡ります。近年は分布域が島の全域に拡大しています。(平城)



ルリカケス

奄美群島（奄美大島・加計呂麻島・請島）だけに分布するカラスの仲間で、国の天然記念物および鹿児島県の県鳥に指定されている固有種です。年間を通して観察できる留鳥です。

全長は 38cm ほどで、平地から山地に生息します。繁殖期前の冬から巣材集めを開始し、春先にはヒナが巣立ちます。近年は人の住んでいない人家の軒下での繁殖が多く確認されています。

綺麗な羽は、装飾品として人気があったそうで、乱獲されていた時代もあったそうです。(平城)



オオトラツグミ

奄美大島だけに分布する留鳥で、国の天然記念物および国内希少野生動植物種に指定されている固有種です。年間を通して観察できる留鳥です。

全長は 30cm ほどで、森林内のうす暗い場所に生息します。雑食ではあるものの、特にミミズを食べていることが多いです。繁殖期の春頃には、早朝のまだ暗い時間帯から「キョローン、ツイツ」と澄んださえずりが森の中に響き渡ります。やがて、アカヒゲやリュウキュウメジロなどがさえずり始めると、オオトラツグミはあまり鳴かなくなります。

かつては絶滅寸前といわれるほど個体数が減少していたそうですが、フィリマンゲース駆除の推進や森林の回復などにより、近年は個体数の増加や分布域が龍郷町まで拡大したことが報告されています。

NPO 法人奄美野鳥の会は、オオトラツグミの生息状況を把握して保護に繋げるため、毎年日本全国からボランティアを募って、3月にさえずり一斉調査を実施しています。(平城)



世界中でここだけにしかない

素晴らしい琉球列島の自然環境を
未来へ引き継いでいくために、

私たちにできることは何だろう

今回は、奄美とやんばるの自然を普及する取り組みについてご報告させていただきました。今後は、同じく世界自然遺産に指定された西表島、徳之島についても取り組みを広げ琉球列島の島々に住む人々が、地域の自然を学び、それらの価値を知り、保全に向けて活動できる基盤づくりを進めていきます。